

福岡市ボウリング協会

【設立年月日】

1987(昭62)年 8月

【加盟年月日】

1985(昭60)年

【歴代会長名】

1987(昭62)年 津田隆士

【歴代理事長名】

1987(昭62)年 有高哲郎

1993(平5)年 高橋博

2001(平13)年 四宮和裕

【沿革】

1987(昭和62)年、第42回国民体育大会(沖縄)の公開競技としての参加を機に、津田隆士を会長に選出し福岡市ボウリング協会が設立されました。

先に発足していた全日本ボウリング協会、福岡県ボウリング連盟でも要職を務めた木林博一(故人)の指導力により国体を始めとする国内の主要大会はもちろん、国際大会で日本代表として活躍する選手やトッププロボウラーが当協会より多数輩出されていることは特記すべきことであります。

【生涯ボウリングと競技ボウリング】

当協会は、福岡市民へのボウリングの普及と振興を図るとともに、ボウリングへの関心を高め、健康で健やかな生活を送ることを目的とした生涯ボウリング、国体や全日本選手権等に出場するトップアスリートの育成とスポーツボウリングの普及を目的とした競技ボウリングの2つの役割を担うべく活動を始めました。

【ボウリングブームとオイルショック】

昭和30年代から昭和40年代にかけてボウリン

グブームが訪れ、県内でもボウリング場の開場が相次ぎ、数時間の待ち時間が出来、出勤前の早朝ボウリングも話題となりました。

一方、米軍キャンプ駐留兵とプレーすることで本場アメリカのボウリングを目の当たりにし、ボウラーの競技力向上へも繋がっていきました。

【昭和から平成へ】

現在でも団塊世代より年長者の中にはボウリングブームを体験され、当時の様子を若手のボウラーに話をされている場面に出くわす事があります。

また、当時はメディアでボウリングシーンが流れることも多く、中山律子プロ(現、社団法人日本プロボウリング協会会長)が、「さわやか律子さん」として一世を風靡したのもこの頃でした。

しかし、昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけてオイルショックの影響を受け、ボウリング場の閉店が相次ぎ、現在も開場、閉鎖が繰り返されているのが現状であります。

【市民総合スポーツ大会】

毎年、10月に開催されている福岡市民総合スポーツ大会に市民ボウリング大会として参加をしております。総合開会式には、協会のメンバー20人~30人が行進に参加し、午後から大会を行うのが恒例となっています。現在は、2人チーム戦を6ゲーム、更に個人の上位者による個人優勝決定戦を行っていますが、協会加盟選手以外のマイボウラー市民の参加が若干名であり、今後はゲーム数やレベルを考慮し、一般市民の参加し易い大会への移行も検討の必要があるのかもしれませんが。

【福岡市釜山廣域市親善大会】

1992(平成4)年、大韓民国・釜山廣域市より20数名が来福され、第1回釜山廣域市・福岡市親善ボウリング大会が開催されました。翌年には、福岡市より12名の選手団を釜山廣域市に派遣し、第

2回大会が開催されました。以後、交流を続け、大会の実施回数は17回を数えています。

【ねんりんピックふくおか2005】

福岡県にて開催された「ねんりんピックふくおか2005」に於いても、かねてより親交のあった釜山廣域市ボウリング協会を窓口として、釜山廣域市選手団を特別参加として「ボウリング交流大会」にお迎え出来たことによって、アジアの玄関口としての福岡市の存在を全国にアピール出来たことは、この上ない喜びでありました。



ねんりんピックふくおか 2005
来日された釜山廣域市選手団

【福岡市釜山廣域市高校生スポーツ交流大会】

2009（平21）年、福岡市釜山廣域市高校生スポーツ交流大会の種目に選んでいただき、福岡市のパピオボウルに釜山廣域市選手団の役員4名、選手10名をお迎えし、翌年の2010（平22）年には、福岡市選手団の役員4名、選手10名が釜山廣域市を訪問し、同交流大会が開催されました。

しかし、両大会とも福岡市在住、在学の高校生が人数に満たなかった為、福岡市近郊の高校生や中学生にも協力を呼びかけての開催であり、当協会としてジュニア選手の発掘や育成といった今後の課題を露呈した形とはなりましたが、福岡市、財団法人福岡市体育協会、釜山廣域市体育会、釜山廣域市ボウリング協会の皆様に、当協会の現状をご理解いただき開催させていただきましたことを深く感謝致しております。



2010（平22）年
福岡市・釜山廣域市高校生スポーツ交流大会
ボウリング会場:アシアドボウリングセンター

【スポーツ振興基本計画】

文部科学省が提唱した「スポーツ振興基本計画」に則り、総合型地域スポーツクラブの設立が全国的に展開されている中、当協会は新たな問題に直面することとなりました。

公共施設やグラウンドを使用するスポーツとは違い、全国ボウリング公認競技場協議会に加盟しているボウリング場にクラブを設置しているのが現状であり、また民間の商業施設を使用して行うボウリングは、地域に根ざすのが難しく苦悩の日々を送っております。

現在も福岡県ボウリング場協会、福岡県ボウリング公認競技場協議会など関係団体と打開策を模索しております。

【今後の活動】

市民が気軽に参加出来る大会や教室等を開催し、ボウリング愛好者を増やし、底辺の拡大と競技力の向上を図っていききたいと考えております。

また、2011（平23）年11月には、福岡市体協50周年記念事業の冠をいただき、博多スターレーンで第2回西日本シニアボウリング競技大会の開催を予定致しております。